



▲ 振いのハッピを着て、おいしさをアピールしながら販売する児童

感動!! 南極の氷が北部小にやってきた

海上自衛隊の氷碎船『しらせ』が約5か月間の任務を終えて持ち帰った“南極の氷”が5月28日、北部小学校に届けられ、5、6年生131人が貴重な体験をしました。

乗員や隊員が行っている海洋観測や物資輸送など支援活動を映像で学んだ後、自衛隊佐賀地方協力本部広報室・野方友喜班長（東多久町出身）が、気象や生物などの環境に触れ、「大陸の上に氷がある南極は、平均気温-30～50℃の世界。地球温暖化で氷が全部解けると、海面が50～70m上昇します」と話し、地球を守るためにできるエコな暮らしを提案。

そして、昭和基地から2km付近で採取された氷を前に、「約2～3万年前の積雪が圧縮されてできた氷なので、当時の空気が閉じ込められ、白く見えます。溶け出すと古代の空気がはじける音がするよ」と伝え、氷が入ったコップに水を注ぎ、子どもたちはオンザロックで乾杯。「冷凍庫の氷より、なぜ解けにくいの?」と不思議がって、味わったり、ブチブチ音を確かめたり、約8kgの氷にも触れ、一つひとつの説明や体感に驚きや感動がいっぱいでした。

環境問題や自衛隊員の仕事も学ぶ

甘くておいしい、納所ビワをどうぞ！

納所児童が店頭販売でPR

納所小の5、6年生18人が6月17日、JAさが多久農産物直売所たくさん館で、特産物“ビワ”をPR販売しました。

郷土をテーマにした総合的な学習で掲げた『納所のよさ発見』の授業の中で、続けてきたビワの袋掛けや収穫などの体験に留まらず、何かできることはないと考え、JA納所支所で産直販売があることを知り、昨年から販売を体験。今年は、納所支所で行った15日と2日間で、準備した量をほぼ完売しました。

図工の時間に作った看板やのぼり旗を持ち、「一度食べたら止まらないよ～」や「ほっぺが落ちるほどおいしいよ～」など大きな声と笑顔でアピール。来客はその姿に「地域を愛しているのがすごく伝わって、元気をもらった」などと話し、買い求めていました。

6年担任の岩崎達義教諭は「販売体験を通して、そこまで至るまでのビワの扱い方や以前までの価値観に変化が出て、家族の苦労や先人の知恵も分かり出した。学びの質を高め、地域に根ざした骨太の子どもたちを育てたい」と。販売を終えた児童は「ビワは多くの宝物。たくさん貰つてもらえて嬉しかった」と、喜んでいました。

市長にバラの花束を贈り これからも頑張って！

佐賀花商組合と佐賀花卉生産組合バラ部会の一行が市役所を訪れ、横尾市長にバラの花束を贈りました。「父の日にバラの花束を」のキャンペーンの一環。同生産組合バラ部会に所属し、栽培歴30年の松尾俊郎さん（東多久町）が「多久市民にとってのお父さんの存在。これからもよろしくお願いします」と手渡すと横尾市長は、「気持ちを花に託していただき嬉しい。しっかり頑張ります」と感謝しました。



6/17

市立図書館が 子どもの読書活動で 文科省表彰受ける

多久市立図書館が『子どもの読書活動優秀実践図書館』に選ばれ、文部科学大臣表彰の伝達を県庁で受けました。子どもたちに親しまれる教室や催しを季節に合わせ30年近く、市民ボランティアと協力したおはなしキャラバンの読み聞かせ活動を10年以上毎月行うなど、継続した活動が評価。図書館は、みなさん身近で親しまれる場、生活にも役立つ場として、これからも工夫を重ねます。

5/27

